

つくばみらい市立わかくさ幼稚園及びすみれ幼稚園再整備検討調査 概要

主要課題	課題への対応方針	適正規模・適正配置の考え方	再整備の方向性 (緊急性の観点から)	再整備の実現に向けて (中長期的な観点から)
■児童数推計上の課題整理 ◇本市の3～5歳児童数の推計 ・2019年以降減少する想定 ◇今後の利用者の見込み ・ピーク時の2019年で約300人。 ・2026年には約190人～約240人程度まで減少する想定。	a ■対応方針1 ◇施設規模 ・将来的（児童減少）な施設需要を踏まえ、適正な規模で検討すべき。	■適正規模の考え方 ◇経済性・効率性 ・児童数のピークを迎える2019年以降の施設利用も踏まえた検討。	◇アンケート調査結果 ・人口は減少することが予測され、現時点では過大な設備投資は現実的ではない。 ・安全面での改善が急務である。	◇中・長期的な方向性の検討の必要性（社会情勢及び人口動向から） ○短期的な対応 「耐震補強」の実施が、最も妥当な方向性と考えられる。 ○中・長期的な対応 ・全国的には、「子ども・子育て支援法」や「女性の活躍推進法」により、子育てしやすい環境整備、質の高い教育を受けることができる教育環境が求められている。 ・子育てにやさしいまち、先進性の高い教育を受けられるまちへのニーズは、さらに高まることが予想される。
■施設の現状からの課題整理 ◇施設の老朽化 ・わかくさ幼稚園 68年経過。 ・すみれ幼稚園 39年経過。 ◇施設改修の状況 ・2園とも大規模修繕は実施していない。 ・わかくさ幼稚園においては、プレハブ造で増築。 ◇耐震化の状況 ・2園ともに耐震化基準を満たしていない。	■対応方針2 ◇施設の安全性 ・耐震化の対応は緊急な課題。	■適正配置の考え方1 ◇施設の安全性 ・短期的な配置方針の検討。 ◇将来需要 ・中長期的な配置方針の検討。	◇再整備の方向性 ・2園の速やかな耐震補強の実施。	◇再々整備について（老朽化への抜本的対応、義務教育施設適正配置との一体整備） ○老朽化への対応 ・引き続き、本市の人口推計や市民ニーズを踏まえた、幼児教育施設整備の検討が必要。 ○小中学校の適正配置との関係 ・幼児期から義務教育を通して一貫した指導・支援体制の確立を図るためにも、義務教育施設の適正配置と一体的な計画づくりが必要。 ◇公立幼稚園の運営について ○認定こども園への移行の検討 ・教育・保育を一緒に受けることができるという利点がある。 ・近年、公立幼稚園や保育所を認定こども園に移行している自治体が見受けられる。
■財政上の課題整理 ◇本市の財政状況（H28） ・財政力指数 0.80（県内13位） ・経常収支比率 94%（県内5位） ◇公共施設の老朽化 ・多くの公共施設において、老朽化が課題。	■対応方針3 ◇実現可能な対応 ・幼児施設以外の公共施設の更新の状況などにも留意する。	■適正配置の考え方2 ◇通園区の弾力化 ◇施設の位置・規模の状況 ◇小中学校の適正配置との関係 など、様々な状況を考慮した検討が望ましい。		

